

事業名	気候変動に打ち克つスジアオノリ安定生産技術の開発
予算区分	地方創生交付金(気候変動に打ち克つ農林水産適応技術開発プロジェクト)
事業実施期間	令和元～3年度
担当者	(環境増養殖担当)加藤慎治
共同研究機関等	
<p><目的></p> <p>気候変動により生産が不安定になっているスジアオノリ養殖業について、漁場環境調査を行うとともに環境変化に適応した品種開発を実施した。</p> <p><方法></p> <p>○漁場環境調査</p> <p>水温・塩分</p> <p>鮎喰川河口のスジアオノリ天然採苗場2カ所において、メモリー式伝導度計(HOBO)を設置し水温・塩分を測定した。また、本養殖漁場に設置したリアルタイム水温計のデータについて解析した。</p> <p>気象</p> <p>気象庁ホームページで公開されている地域気象観測システム(アメダス)の”徳島”での観測結果について取りまとめた。</p> <p>○品種開発</p> <p>低水温期にも生長が期待できる品種開発を目的に、収集株について5～25℃で培養し温度別の日間生長率を調べた。</p> <p><結果></p> <p>○漁場環境調査</p> <p>水温:天然採苗場においては変動しながら徐々に低下していたが、12月中旬に気温が下がったことにより急激に低下した。以降はほぼ横ばいで推移した後、1月以降は上昇した。本養殖漁場におけるリアルタイム水温についてもほぼ同様に推移した。</p> <p>塩分:天然採苗場では10月にまとまった降雨があったため一時的に淡水化したものの、11月以降は少雨傾向となったため極端な淡水化はみられず、塩分は高めで推移した。</p> <p>気象:平年と比べて気温が高い日が多く、1月中旬以降は特に高かった。また、10月にまとまった降雨があったものの11月以降は少雨傾向であった。</p> <p>○品種開発</p> <p>天然水域で低水温期に収集した株(以下、低温株)と、広い水温帯で生長する従来株(以下、Y株)について5～25℃の温度帯で、5℃刻みで試験区を設定し培養試験を行ったところ、日間生長率は低温株で5.8～19.8%、Y株で4.1～10.3%であった。試験を実施したすべての温度帯で低温株の生長が優れており、広い温度帯で生長可能であることが示唆された。</p>	

<今後の課題>

漁場環境の変化について引き続き把握に努める必要がある。また、品種開発については試験に用いる藻体のコンディションによっても結果が異なる可能性があるため、複数回の試験により生理特性を把握する必要がある。

<次年度の計画>

引き続き漁場環境調査を行うとともに、環境変化に適応した品種開発を進める。

<結果の発表・活用状況等>

特になし

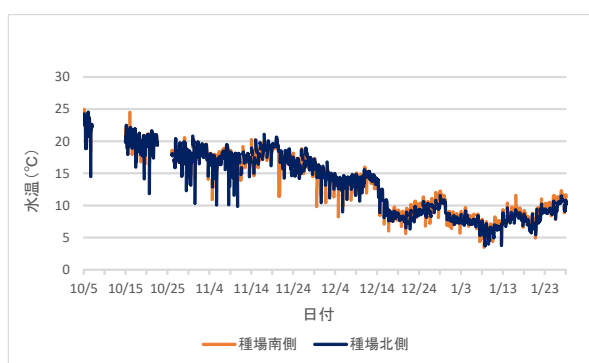


図1. 天然採苗場における水温の推移

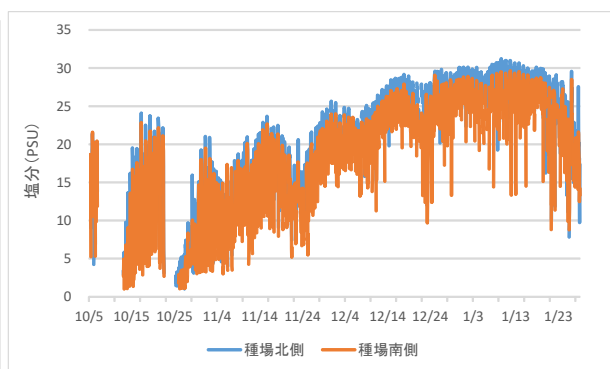


図2. 天然採苗場における塩分の推移

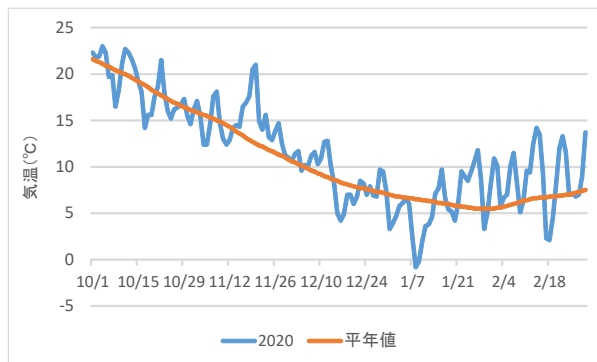


図3. 漁期中の気温の推移(徳島)

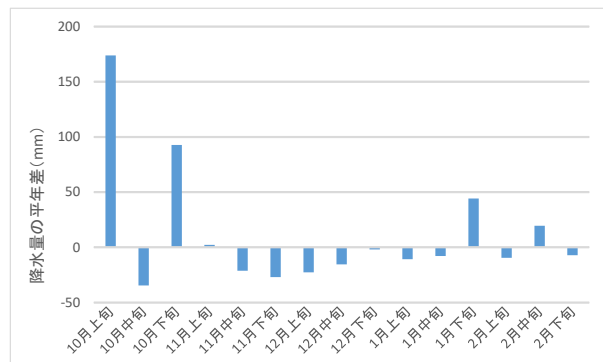


図4. 漁期中の降水量の平年差(旬別積算)

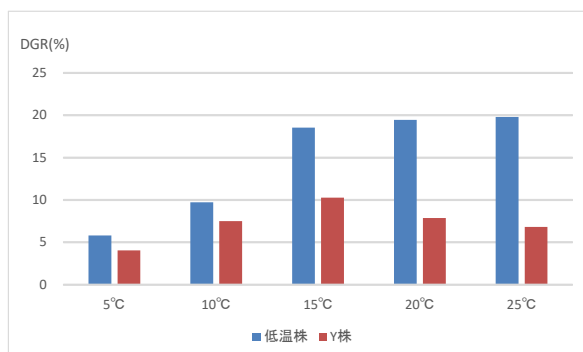


図5. 水温別日間生長率の比較